

# 「百万石乃白」研究会の設立について

中央普及支援センター

「百万石乃白」は、石川県農林総合研究センターが11年の歳月をかけて開発した大吟醸酒に適した酒米の新品種です。

「百万石乃白」を使用した日本酒は、フルーティーですっきりとした味わいに仕上がりがり、酒造関係者からも期待されています。

令和2年4月から「百万石乃白」を使用した日本酒の一般販売が開始され、新型コロナウイルス感染拡大により日本酒の需要が減少する中であっても販売状況は堅調で、小売店からも高い評価をいただいています。

そのため、生産面では酒造関係者が求める「品質の高い酒米の生産」と「安定した量の確保」が不可欠となります。

そこで、中央普及支援センター及びJA全農いしかわが「百万石乃白」の栽培技術の向上を図るため、安定生産及び評価向上に向けた取り組みを各地域の「百万石乃白」生産者に働きかけた結果、県内5地域の代表が発起人となり、令和2年7月14日に生産者で組織する『「百万石乃白」研究会』を設立しました。

「百万石乃白」研究会設立総会では株式会社吉田酒造店の吉田泰之代表取締役社長から『酒米新品種「百万石乃白」に対する期待や評価』についてご講演いただき、また研究会会長に就任した有限会社ハヤシの林勝洋代表取締役からは『「百万石乃白」栽培の取り組みと今後の抱負』について話題提供していただきました。

「百万石乃白」は、県が大吟醸酒用の酒米として初めて世に送り出し、普及拡大を目指す、待ちに待った酒米の新品種です。今後は、より良い酒造りに貢献できるよう「百万石乃白」研究会会員と関係者がともに「百万石乃白」を県のブランドとして大切に育てていきます。



「百万石乃白」研究会 設立総会の様子

問い合わせ先：農林総合研究センター農業試験場

中央普及支援センター(076-257-9150)